

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

フランクフルト書籍展・今と昔	1
委員会報告<広報委員会>	2
理事会報告・委員会報告<文化厚生委員会>	3
うちの会社	4
新・パソコン外論考(其31)	5
出版文化史逍遙(73) 洋書の歴史雑記帳(XXVIII)	6
大学キャンパス学園祭	7

フランクフルト書籍展・昔と今

フランクフルト書籍展に参加して何年になるか定かではありません。いずれにしても初参加はかなり昔のことになります。それ故に本稿を依頼されたのでしよう。私が関わってきた医学出版界のスキ間から見聞した世界で最も大きな書籍展の変遷を語りたいと思います。

(感激の書籍展)

初めて参加した1970年代から1980年代の前半まではドイツ経済も元気があったし、書籍展も活気に満ちていました。新しい企画の発見、有望な出版社との出会いの喜びがありました。初めて直に接するヨーロッパ文化と金髪のドイツ美人への感激と白菜の塩漬けの味を未だに覚えています。当時の展示会場の設備は未だ貧弱であり、ホールからホールへは建物の外を歩くか、周遊バスによって移動しました。雨と強風の日の移動はまことに困難をきわめました。昼食をとる場所も不十分でした。建物の外のスタンドで傘をさしながらソーセージと固いパンをビールで流し込んだ昼食を今では懐かしく思い出されます。子供時代から憧れていたソーセージもしばらくの間は食傷気味でした。それぞれのブースには営業担当者に加えて出版人が参加していました。版權の交渉もさることながら、出版人が語る数年先の企画、彼らの出版哲学に接しながらアメリカ、ヨーロッパの医学界のあゆみを学ぶことが楽しみでした。会場での30分刻みの話し合いでは物足らず、夜な夜なの飲み会で補い公式のヨーロッパ風夕食会をこなすと午前の帰館になりました。「朝から朝まで働く！」が当時の私たち仲間の合言葉でした。

(曲がり角の書籍展)

1980年代の後半から世界の出版界は変わりはじめました。統合買収により、独自の出版文化を培ってきた中小の出版社が数多く消え、優れた出版人が離れて

いきました。「大きいことはいいことだ」のキャッチフレーズが流行りましたが、出版界には当てはまらないようでした。書籍展も例外ではありませんでした。かつての知己との再会が不可能になり、何人かは消息不明のままです。私個人の関心からは、刺激のない無機質な集まりになってしまいました。毎年会場に買収の噂と憶測が流れ、買収の終結が発表されていました。出席者の中には明日の我が身が定かでなく不安を感じている人々も数多くいたようです。会場は一段と近代化され、ホールが増設され建物の中での移動が可能になりました。食堂もあちらこちらに整備され随分便利になりました。私の止宿先も共同トイレ、共同シャワールの宿からパーズきのホテルに昇格した時代でした。

(混迷の書籍展)

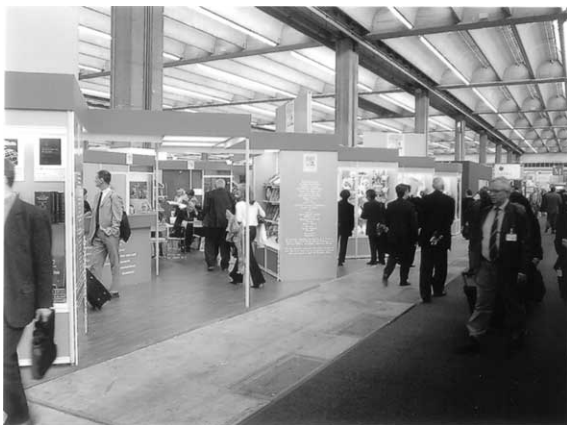
1990年代の半ばからは書籍展を卒業したつもりでもおりましたが、役目柄パートナーと経営問題を話し合うために引き続き参加しました。この頃の書籍展にはかつての活気も熱気もありませんでした。ワクワクする新企画、誕生したばかりの有望な出版社との出会いは全くありませんでした。唯一変わらぬものは版權と海賊版の問題でした。毎年STMの会議でこの問題について論じられていましたが、解決の兆しは未だ見られないようです。多くの出版社が電子出版に向かいはじめた時代でした。紙の時代の終焉を大胆に予測する大手出版社の社長もいました。電子媒体が紙の媒体にとって代るのか、紙を補ってより強力な媒体を創出するのか見解が異なっていました。時代が方向を決めるでしょうが、紙の印刷物が完全になることは考えにくいところです。情報通信産業に呑み込まれた出版社の進路に迷いがあり、迷いを反映した近年の展示会でした。情報配信、検索の方式は大いに工夫されるべきでしょうが、時代を先取る情報の内容強化が優先されるべきでしょう。コンテンツ強化の出版の原点は時

代が変わっても不変であると思います。

テロ攻撃のあったミュンヘンオリンピック後の過剰警備の書籍展（1972）、ベルリンの壁の崩壊、東西ドイツの統一（1989,1990）、アメリカの多発テロ後の書籍展（2001）といった場面にフランクフルトで立

ち会ってきました。たった一週間の集まりですが、多くのことを学び、多くの知己を得ました。フランクフルト書籍展が、情報技術の集まりから人文科学の原点に立ち戻って発展することを切に希っています。

（株）エル・ダブリュ・ダブリュ医学書院 西澤正之



〔写真提供 (株)エル・ダブリュ・ダブリュ医学書院 村山俊哉氏〕

委員会報告 <広報委員会>

2002年フランクフルト・ブック・フェア

日本洋書協会会報10月号の理事会報告に記載の通り、広報委員会活動の一環としてフランクフルト・ブック・フェア会場での Invitation to JAIP-A List of Members 及び日本洋書協会ダイレクトリーの配布をいたしましたので、ご報告申し上げます。昨年も広報委員会委員長をお務めになった清水様が、会場でダイレクトリーを配布くださり、外国の出版社から種々取引についての問い合わせを受けたことは皆様もご存知のことと存じます。

さて、本年度はブック・フェアの前日、10月8日に行われた STM (International Association of Scientific, Technical & Medical Publishers) の General Assembly で主要出版社の方々へのご挨拶からはじめました。当日は STM のメンバーである本協会の会員数社、自然科学書協会のメンバーの出版社の方々も出席されておりました。例年よりも過密な日程が組まれておりましたので、会場でのパンフレット・

ダイレクトリーの配布はいたしませんでした。

ブック・フェア会場では10月9日～11日の3日間、アメリカ、イギリス、ドイツなど日本に多くの書籍、雑誌を輸出している出版社、及び現実に輸出はさほどしていないまでも日本に向けた出版物を刊行している約80社ほどの出版社のスタンドに海外業務担当者を訪ね、50数人の方々から名刺を入手いたしました。

日本法人あるいは日本代表を持っているアメリカあるいはイギリスの有力出版社ばかりではなく、多くの出版社でダイレクトリーの最新版が担当者の手元にまでは行き渡っていないケースも多く、喜んでいただきました。また昨今盛んな M&A で新しい組織内で誕生した新しい担当者から日本の輸入関係者についての情報を求められるケースもかなりございました。

また、今回も Invitation to JAIP およびダイレクトリーの輸送に大変お世話になった出版文化国際交流会

のスタンドに Invitation to JAIP を約 60 部ほど置かせていただいたところ、会期中にほとんどすべてをご持参いただいた由伺っております。出版文化国際交流会 是永専務理事殿はじめご協力くださった皆様に紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

会場でお目にかかった皆様には、協会のメンバーの皆様へのコンタクトをお願いし、また今までに特定の会社との取引のない出版社には協会事務局への連絡をお願いいたしました。

なお、2002 年度フランクフルト・ブック・フェア・カタログ（出展社資料掲載）お会いした輸出ご担当者の方々のお名刺は協会事務局にご保管いただきます。皆様のお役に立つこともあるかと存じます。是非ご利用いただきたいと思います。

ご質問がございましたら、事務局にメールまたはファックスでご連絡いただきたくよろしくお願い申し上げます。

広報委員会副委員長 皆川純一郎

理事会報告

10月30日（水）

1. 2002 年度上半期（4～9 月）累計収支に関する事務局長報告を了承した。
2. 以下の正会員 2 社の 9 月 30 日付け退会届けを受理した。

（株）ハブネット（2000 年 1 月入会）

（株）オライリー・ジャパン（2001 年 1 月入会）

この結果、2002 年 10 月 1 日現在正会員 69 社、賛助会員 7 社、計 76 社となった。なお、グresham 理事より入会勧誘中の企業がある旨の報告があった。

3. 以下の委員会報告を了承した。

広報委員会（新田委員長）：

フランクフルト・ブックフェアでは皆川理事（同委員会副委員長）が協会パンフレットを

主として欧米主要出版社の営業担当者に直接配付した。

明年以降の同ブックフェアに協会ブースを設ける件について、近々全会員にアンケートを実施したい。

東京国際ブックフェアの開催権をリードに譲渡したことに伴い、還付金の一部が当協会にも支払われる。

総務委員会（大倉委員長）：

事務局長人事に関して直近の総務委員会にて答申案を審議する。

文化厚生委員会（グresham 委員長）：

2003 年の新年賀詞交換会を 1 月 8 日（水）にプレスクラブで開催する。

委員会報告 <文化厚生委員会>

JAIP 秋期アジ釣り大会

季節を問わず、1 年中釣れるのがアジ。そのアジを狙って今年最後の釣り大会が 10 月 19 日（土）に三浦半島は久里浜港で開催されました。今時のアジは油ものって美味です。船宿はアジ釣りには定評があるとの事で、今回初めて利用する「鈴福丸」です。初参加者 3 名を含め、11 名の方が参加されました。比較的数字が釣れるアジですが、今回から幹事をやる事になった私（塚本）としては、期待と責任感でいっぱいです。今

日の天気予報は、曇りのち夕方一時雨、雨の確率は 1 日通して 10 %、波の高さも 1m 前後なので、何の心配もなく釣りに熱中できそうです。定刻通り 7 時 30 分に久里浜港を出港しました。いつものように隣どうし雑談をしながら仕掛けを用意しているうち、20 分程で観音崎沖の釣り場に着き、船長の「どうぞ」の掛け声で一斉に釣り糸を垂らします。（この第一投目が一番ワクワクするのですが）そして 10 分がたち、20 分が

過ぎました。誰の竿もピクリともしません。好漁の時は糸を垂らして2～3分で釣れることが多いのですが。(少し不安)40分程してようやくポツリ、ポツリと釣れ始めました。

午前中は潮の流れも悪く、今日は午後から入れぐい状態かと期待しながら懸命にコマセを交換しますが、いっこうに釣れません。5回程場所を変えましたが、結局状況は変わらず、不安が的中となってしまいました。そんな中でも外道のイシモチ(白身の魚で結構おいしい)が釣れたり、初参加で女性の阿部さんなどは暴れるサバを必至に取り込んで感動していたりと、それなりに楽しかったようです。

そして午後3時、まだ釣りたい気持ちを押さえながら、(私だけ?)船長の「あがります」の指示で、納竿となりました。結局7時間で船中で大アジ92匹、その他サバやイシモチ等で、アジ釣りとして少し物足りない釣果となってしまいました。優勝は私(塚本・大洋交易)と半田さん(大洋交易)で同数の11匹、3位は廣瀬さん(大洋交易)と小松さん(太陽図書貿易)で、同数の9匹という成績でした。次回は来年の4～5月頃キス釣りを予定しています。みなさん奮っての御参加をお待ちしております。

(大洋交易株式会社 塚本 記)

うちの会社

海外新聞普及株式会社

< Overseas Courier Service Co.,Ltd. / 略称 OCS >

東京都港区芝浦2-9-13

Tel : 03-5476-8164 Fax : 03-3453-4341

e-mail: impsub@ocs.co.jp

URL: <http://www.ocs.co.jp>

日本経済が本格的な成長期に入った1957年(昭和32年)、海外新聞普及株式会社(英文社名 Overseas Courier Service Co.,Ltd. / 略称 OCS)は、海外で生活する在留邦人に日本で発行される新聞を届けるため、朝日・日経両新聞社の出資と国内主要紙の賛同・協力を得て創業しました。海外へ低料金で、迅速に、365日休むことなく新聞を届けるというサービスは、ほどなくして新聞・雑誌・書籍の輸出入へと事業の幅も広がり、現在では海外拠点が220余となりました。購読を主としてスタートした弊社の事業活動は、その後「国際宅配便事業」も加わり、現在では購読事業と並ぶ柱へと成長しました。

英文社名にある「クーリエ」は、フランス語の「使者」、英語では「旅先の案内人」や「急送」を意味し、弊社英文社名は「あらゆるものを海外へ運ぶ急送サービス」といった意味となります。

輸入購読事業(新聞・雑誌・書籍)は日本国内読

者の要望を受け、1964年に「New York Times」など世界の主要紙を海外拠点で買い入れ、エアカーゴで急送し日本で販売する業務からスタートしましたが、現在では世界各国の新聞約300タイトルを取り扱い、オフィスや個人宅に届けています。中でもアジアの新聞は発行日の翌朝(東京23区内のみ)、国内新聞といっしょに配達しており、そのスピードとユニークな配達方法がビジネスの世界で評価されています。また、雑誌・書籍についても、海外拠点で入手したものを新聞と同じフライトで空輸しており、そのスピードとフットワークの良さは、弊社の誇りとするところです。

「日本洋書協会」への加入は2001年2月と遅くなりましたが、今後も会員の皆様のサポートをいただき、一会員として輸入書業界発展の末端を担えることを願っております。

垣屋義孝

新・パソコン外論考(其31)

宇田川一彦

My Blue heaven / 夕闇迫る頃、楽しき我家へ

■子曰く、三年學、不至於穀、不易得也、

The Master said, "It is not easy to find a man who can study for three years without thinking about earning a salary."

(論語 / 泰伯篇・Confucius; The Analects / Book)

【超拙意訳；先生が、言われた。「3年間勉強した結果として、サラリーを欲しがらぬものは、めったに見つからないね」】

【外注；「穀」を「善」と解釈して、3年間勉強して善に至らぬものは、めったにない、とするのが古注。穀を俸給と読むのが朱子の新注です。ここは、新注に従っております。】

Internet について

青森市での博物館取材の続きです。「財団法人棟方志功記念館 (<http://www.lantecweb.com/shikokan/index.html>) は、思っていたより小振りでした。建物の校倉造が印象的でした。同じように、非常に建物が印象的だったのが、「青森森林博物館」(websiteは、現在なし)です。日本唯一の林業に関する博物館で、1908(明治41)年の建造物。ルネッサンス様式木造建物で、旧青森営林局庁舎。映画「八甲田山」のロケに使用した局長室が、特別室として復元されています。

野外には、旧津軽森林鉄道の実物機関車・ヒバ丸太用貨車などが展示されています。

「竜飛ウィンドパーク (Tappi Wind Park = website: 現在なし)」は、入館無料。30メートルの風力体感をしてきました。また隣り合わせにある「青函トンネル記念館」(Seikan Tunnel Museum = website: なし)では、海面下140メートルの別世界を体験しました。

Personal Computer 関連英語余談(2)

先号で述べました「画像入力装置用APIおよびプロトコル」という固い訳語が定着しているTWIN(トウェイン)という略語(abbreviation)の原語は、Technology Without Any Interested Nameです。

このようなPlain Englishのコンピューター略語は、DOS(Windowsの1世代前のDisk Operating System)の時代からありました。

WYSIWYG(ウィジウィグと読んでいます)が、

DOSからWindowsへの移行期の代表といえます。コンピューターのソフトウェア(ワープロソフトなど)で作った文書や図形が、ディスプレイ上で見たように、プリンターで印字できるという「こと」を言います。

WYSIWYGは、What You See Is What You Getの略語です。意識は、「見たとおりに(打出しでは)得られる」でしょうか。これには、TWINのような、カチッとしたコンピューター訳語がなかったように記憶しています。要は、当時のパーソナル・コンピューター(といっても、ここ5~6前ですが)で、ワープロソフトを使い文書1枚作っても、ディスプレイ上で見える文字(これはコンピューター内蔵の漢字ROM = Read Only Memory)と打出す文字(プリンター内蔵の文字種に制限)のギャップに泣かされたものです。

このDOS時代は、CUI(Character based User Interface = 文字に基づいたユーザー・インターフェイス)すなわち、コマンドでコンピュータを操作するものでした。Windowsになって、唯一のメリットは(筆者にとっての)WYSIWYGが、現時点で可能になったことです。文書でも、楷書体で印字したいと思えば、ディスプレイ上でもきちんと楷書体で表示され、違和感がないことです。ただ、アイコンとか、マウスを使ってコンピュータを操作するGUI(Graphical User Interface = 図式的なユーザー・インターフェイス)には、いまだになじみず弱っていますが...

検索エンジン(Search Engine)として名を馳せたYahoo(ヤフー: Yet Another Hierarchical Official Oracles)も、かなり訳しづらいものです。もとは、「またあ! 階層式の世話の焼けるご託宣がでた」といったところ。この検索エンジン開発者(スタンフォード大学の学生D.FiloとJ.Yang)が、何という名をつけようかと考え、辞書を引いたときにyahooが気に入ったとされます。SwiftのGulliver's Travelsに登場する人間の姿をした獣(yahoo)をいいます。かつては、OSやプログラム開発にコード名として、打合せをしたホテルの名前とか付けていましたが...

最近のInternetやコンピューター用語には、ママのものが幅を利かせています。ブロードバンドで、喧伝されますADSL(Asymmetric Digital Subscriber Line)があります。まあ、訳しても「何が非対称なのか」が、わからなければ困るのですが、やれ12MBだの8MBという数字ばかりに力が入っているようです。

(以下次号。乞うご期待)

洋書の歴史雑記帳(ⅩⅧ)キリシタン版の原書(2) 鈴木 陽 二

加津佐(1)

早曉の島原鉄道は、うっすらと金色に染まり始めた有明海に沿って南下し、窓外を食い入るように眺めていた私の目に曙光がいっぱいに広がり、海は明け放って行った。私は2度島原半島を訪れたが、最初は6年前で、普賢岳の噴火が治まった翌年だった。土石流に削り取られた荒々しい山肌をさらしている普賢岳は、車窓いっぱい猛々しく屹立していた。国道は開通していたが、土石流に覆われた大地は復興が進まず、荒涼とした光景が果てしなく広がっていた。

「島原大変肥後迷惑」という口伝がある。1792(寛政4年)にも普賢岳が噴火し、その山塊のひとつ眉山が吹き飛んで、島原の城下町は壊滅的な打撃を受けた。そして土石流が海に押しだし、飛び散った岩石が海に落下したために発生した津浪が、有明海を走って対岸を襲い、肥後沿岸に大きな被害を与えた。今、島原外港の辺りの海上に小島が点々と姿を見せ、この九十九島の美しい風景は観光のポイントでもあるのだが、その島々はかつて眉山が吹き飛んだ巨大な岩石であることを知ったとき、島原の人々が被った災害の重さに暗澹たる気持ちにさせられる。

島原の歴史は悲しみの歴史だった。平地がほとんどない半島の領民は、領主の無謀な為政によって重い租税を課せられ、そのうえキリシタンに対する苛酷な弾圧に苦しんだ。1637(寛永14年)に起きた島原の乱は、農民一揆を根底にもつキリシタンの反抗だった。島原城址を訪れた日、暮れも押し詰まった季節にもかかわらず、海を渡ってくる風は暖かく、柔らかい日差しがだっ広い本丸跡を包んでいた。静謐なこの光景に浸っていると、ここであの凄惨な戦いが行われたという史実が、架空の歴史小説のように感じられてくる。幕府軍が蟻の群れのようにはい上がった古びた石垣や、天草四郎の墓という小さな墓石、一時幕府軍総大将だった板倉重昌の墓と鎮護碑、それらの遺跡がこうして歴史の痕跡を止めているが、しかし、どんな史跡にもまして、島原湾に突き出た巨大な城址そのものが、島原の乱の確かな歴史を追想させてくれる。

島原鉄道の終着駅は加津佐である。諒早を出て3時間ほどの遠いこの町は、島原半島を半周した南端の町で、訪れる人は地の果てにでも赴くような気持ちにな

るのだが、かつては隣町の口之津とともに南蛮文化を受け入れた、西洋の先進文化の窓口だった。ついにながら、口之津は明治以降石炭の貿易港として栄えた歴史をもち、今でも旧税関の煉瓦造りの建物などが残っていて、往時のにぎわいを教えてくれる。

海沿いの加津佐の駅を降りると、道路を渡ってすぐ坂道にかかる。それほど平地が少ないのだが、それはともかく、その坂を10分ほど上ると円通寺跡が、刈り込まれた植栽の小公園となって残されている。ここが加津佐コレジオ跡という説もあるが、町教育委員会では、ここより少し上った天辺の丘と呼ぶ高台辺りをセミナリオ・コレジオ(学林)跡と認定し、そこには説明板が立てられている。緑地帯の中の住宅地域で、そこに立つと、木の間隠れに天草の海が初冬の陽光を受けてキラキラ輝いているのが望まれる。大きな新しい建物だった学林は、当時は海に面した崖の上にあったというから、パテレンたちは聖務の合間に、海を見ては望郷の念に駆られたのではないだろうか。

セミナリオ・コレジオはイエズス会が宣教師や修道士の養成のために設けた学校で、セミナリオは聖職者・在俗指導者養成の機関で中・高校程度の学校、コレジオはイエズス会士養成の専門教育機関だった。天正遣欧使節の使者4人も、セミナリオで修練を受けた少年たちであった。1587年(天正15年)に秀吉は伴天連追放令を発し、各地でキリシタンの受難が始まった。そのあおりを受けて各地にあった学校は廃止されたり、点々と拠点を変えたりしたが、ここ加津佐には、1589年(天正17年)にセミナリオが、そして1590(天正18年)にコレジオが移転してきた。

イエズス会宣教師ヴァリニャーノは、巡察師として1579(天正7年)に口之津に来航して日本の布教組織を確立したが、遣欧使節を企画したのも彼だった。コレジオが加津佐に移転するその年に、日本全国の宣教師を同地に招集して第2回目の協議会を開催した。そしてその会議で、学林などの教科書や布教の教導書を、遣欧使節が持ち帰った活版印刷機を使って出版する方針が決定されて、いよいよ日本で最初の印刷に着手されることになった。〔参照文献:望月洋子『加津佐物語』/尾原悟『ザビエル』/青山敦夫『活版印刷人ドラードの生涯』〕 (元丸善・本の図書館長)

11月は多くの大学で学園祭が催される。卒業生はhome-comingの機会でもあり、高校生にとっては、大学選択の機会ともなる。また、卒業生にとっては思い出を懐かしむ機会でもある。このような大事なイベントであるのに、従来は学生の自治にすっかり任せる形式をとっていたため、学生運動の宣伝とかはけ口であったりしたものだ。学生の政治運動が下火になると、娯楽的な呼び物や、気楽にやれる喫茶店や簡易食堂というようなものが多くなった。

最近では、少子化の影響もあって、各大学でそれぞれの魅力を出して、より多くの受験者が応募してくれるようにという競争が生まれている。学園祭も「学生の自治」に任せるだけでなく、大学側の行事として取り上げるようになってきたところが増えていっているのではないだろうか。

筆者の大学では教職員も参加する学園全体のお祭りとして38回目を迎えた。筆者は英語関係であるので、関係のコンピューターの専門家と共に、「よりすぐりの英語」をインターネットから取り出し、展示をすることになった。まず *Longman Pronunciation Dictionary* (2000) の編者として有名な、ロンドン大学教授 John C. Wells と *The Daniel Jones English Pronouncing Dictionary* (1997) の編者であるレディング大学教授の Peter Roach のモデル発音だけでなく、同教授の写真と発音辞典を取り出して展示した。また、声優 (voice actor) が読んだ *Harry Potter and the Philosopher's Stone* の声も取りだし、テキストと映画の一コマの写真と共に展示した。一方アメリカの英語では、ケネディ大統領の就任演説、M.L.キング牧師の "I have a dream." の演説をテキストと写真をインターネットから取りだし展示した。英語の採用地域が大西洋の両側に偏り過ぎるのを避けるために、シアトルを舞台にした Eco-friendly な教材を同僚の米人教師と本学の学生たちが吹き込んでくれたテキストとテープも展示した。

展示の方式には学生有志のアイディアはたいへん役立った。まず世界地図をパネルに貼り、その左右にイギリスとアメリカの拡大地図を貼り、イギリスの地図から3箇所、またアメリカの地図から同じく3箇所を選んで、1番から6番まで通し番号をつけ、それぞれの地点から色別の紐でカセットまたはパソコンにつな

ぎ、発信源を再生の時にはっきりさせた。それによって、訪れた人たちはどのテープがどの地域からのものかが一目瞭然であった。

なるべく多くの人たちに来てもらわなければ展示の意味が薄れるので、英語についての簡単なクイズを20題出すことにした。クイズの上位正解者には景品をつけること、また受験者には全員参加賞を出すこととした。そう決めても予算は3000円止まりだから、100円ショップに行って、世界地図、紐、両面テープ、サインペンほかは消しゴムつき鉛筆が12本で1セット100円なので、それを参加賞とした。景品を買う予算がないので、書店などをお願いしたところ、高価な英

語辞典など、数社から合計して50点近く献本をいただいた。苦しい財政の中で、好意的に献本していただけたことは誠にありがたい。この紙面をお借りして感謝の気持ちをお伝えしたい。

クイズ問題は3種類20題とした。1種類目はテープを聞いてアメリカ英語かイギリス英語かを判断する問題である。出題内容は、次の5題である: I beg your pardon? (your, par-のr音影響の無い場合は英音)/ What are you gonna do this afternoon? (gonna と af- [æf-] は米音)/ What's your name? (what [wɒt] と your の r 抜きは英音)/ Wait a minute. (t のラ行音化は米音)/ Seitoku University (ver の r 抜きと t のラ行音化は米音)。2種類目はヒント付きのディクテーションが5題 (例えば、Jack and Betty のうち、「若干便利」をヒントに Jack and を書き込む) 3種類目は l と r の区別 (light/right, flea/free など) を10題とし、20点満点とした。日本を経済大国にするのに寄与された海外で活躍のビジネスマンはさすが満点に近かったこと、また米音に慣れた人はイギリス英語の Do you.. が「デュ」になると聞き取りにくかったようだ。

(聖徳大学教授)

大学キャンパス 学園祭

島岡 丘

— 中世人の目がみた動物王国の神秘 —

ケンブリッジ大学コーパス・クリスティー・カレッジ所蔵 ピーターバラ中世動物譜

The Peterborough Bestiary. Corpus Christi College, Cambridge, MS 53, fol. 189-210v.

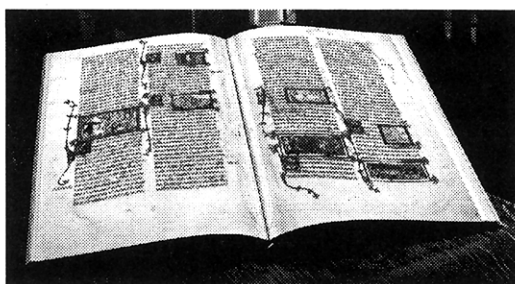
◆ 豪華ファクシミリ版 ◆

中世ヨーロッパ人の目に映った動物王国の神秘

『ピーターバラ中世動物譜』に代表される、「中世動物譜」(Bestiary)と呼ばれる書物は、中世ヨーロッパの人々にとって、現代の私たちに与える動物図鑑や、テレビの動物番組と同じような役割をもつものでした。中世動物譜は、当時のヨーロッパで知られていた動物についての情報や、古典古代の著作から伝わる様々な知識が集められ、キリスト教的な寓意を加えられて成立したもので、自然科学の発達によってより正確な知識がもたらされるようになる以前の時代、動物とその世界に関する中世人の貴重な情報源でした。

104点の挿絵に彩られた中世最高の動物譜写本

1300年頃にピーターバラ大修道院で製作された『ピーターバラ中世動物譜』は、同種の作品中でも最も包括的な写本のひとつで、鳥類、は虫類、魚類を含む100種以上の動物が、惜しげなく金を用いた104点の豪華な挿絵とともに解説されています。



700年の時を経て甦る中世ゴシック美術の傑作

今回、『ピーターバラ中世動物譜』を所蔵するケンブリッジ大学コーパス・クリスティー・カレッジの創立650

周年を記念し、この貴重なゴシック期写本の完全ファクシミリが刊行される運びとなりました。わが国で中世動物譜の完全ファクシミリ版が刊行されるのは初めてのことで、中世人の目にうつった「動物王国」の全容を、700年の時を経て追体験することが可能になります。ぜひこの機会にご予約を賜りますよう、お願いいたします。

仕 様 ・ 価 格

- 原 本：ケンブリッジ大学コーパス・クリスティー・カレッジ パーカー図書館所蔵
写本53番 第189葉～210葉裏「ピーターバラ中世動物譜」
- ファクシミリ巻：348×236ミリ、フルカラー、22葉(44頁)、総革装(空押し模様入り)
- 解説巻(英文)：348×236ミリ、背革装、ケンブリッジ大学パーカー図書館館長 クリストファー・デ・ハメル(ラテン語本文翻刻・英訳)／ニューヨーク大学 ルーシー・サンドラー博士(解説)
- ファクシミリ巻・解説巻をあわせて収納するアクリル製ケース付き
- 雄松堂書店／ファクシミリ・フェルラー・ルツェルン社(スイス)共同出版
- 全世界1,480部限定発売・2003年5月刊行予定
- 頒 布 価 格：1. 前払い予約特価(2003年3月末まで有効) 370,000円(税別)
2. 予約特価(刊行前まで有効) 440,000円(税別)
3. 刊行後定価 520,000円(税別)

豪華内容見本 頒布中!!(見本リーフ2葉、日本語・英語解説付き) 定価8,500円(税・送料込)

※ ファクシミリ版本体をご注文いただけた場合には、内容見本の代金はご返却いたします。
※ 数に限りがございますので、お早めのお申し込みをお勧めいたします。

◆ お問い合わせは、下記まで ◆

(株) 雄松堂書店

〒160-0008 東京都新宿区三栄町29 Tel. 03-3357-1411(代) Fax. 03-3356-8730
Homepage: <http://www.yushodo.co.jp> E-mail: sales@yushodo.co.jp